

証券コード:6469



独創技術でニーズにお応えする

2017年2月期 決算説明資料

2017年 4月18日

株式
会社 **放電精密** 加工研究所

■ 成田事業所事故について	・・・P 3～ 5	■ 2018年2月期通期見通し	
		□ 2018年2月期通期見通し	・・・P18
		□ 2018年2月期通期見通し(セグメント)	・・・P19
		□ 2018年2月期/設備投資・償却費・研究開発費	・・・P20
		□ 株主還元配当方針	・・・P21
■ 2017年2月期決算概要		■ 中期経営計画2017	・・・P22～27
□ 2017年2月期のポイント	・・・P 6		
□ 2017年2月期決算概要	・・・P 7		
□ 2017年2月期損益計算書	・・・P 8		
□ 2017年2月期変動要因	・・・P 9		
□ 2017年2月期セグメント別概要	・・・P10		
・セグメント別詳細:放電加工・表面処理	・・・P11		
・セグメント別詳細:金型	・・・P12		
・セグメント別詳細:機械装置等	・・・P13		
□ 連結貸借対照表とCFの状況	・・・P14		
□ 2017年2月期/設備投資・償却費・研究開発費	・・・P15		
□ 事故の影響について	・・・P16		

別紙：2017年2月期決算補足資料

お詫び

2017年2月17日(金)に発生いたしました弊社成田事業所における爆発・火災事故に関して、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げ、ご遺族に対し心よりお悔やみ申し上げますとともに、負傷された方に対しては1日も早い快復をお祈り申し上げます。さらに、近隣の皆様、投資家の皆様、お客様、関係当局の皆様など多くの方々に多大なご迷惑、ご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

事故の概要

発生日時 2017年2月17日 13時54分頃

発生場所 成田事業所 表面処理棟内にある塗装施設

事故の概要 表面処理棟内にある自動車部品への耐熱塗装を行う塗装施設で爆発し、火災発生
塗装施設、工場建屋の一部を損壊

被害状況

- ①人的被害 従業員3名。(死者2名、負傷1名)
- ②物的損害 塗装施設を中心に全壊
及び表面処理棟建屋の一部を損壊

事故より現在までの状況

安全管理体制の再徹底と代替生産体制の構築

他の事業所における安全管理の再徹底

表面処理事業拠点を中心に、徹底的に安全確認を実施
外部機関を含めての検証。安全管理の再徹底指示

当該業務の代替生産

表面処理業務を実施している2拠点(春日井・岡山)で
手作業による代替生産を実施。客先への供給責任を果たす

事故調査委員会の設立と調査

事故に至った実態を把握、事故原因の推定、
再発防止策の方針を迅速に決定し、安全体制の再構築を推進

■ 前期比増収・増益

- ◇ 金型が順調に推移
- ◇ 航空機エンジン部品事業の損失減少

■ 計画比減収・減益

- ◇ 金型が増収もその他のセグメント減収 全体では減収
- ◇ 減収により営業利益で減益
- ◇ 持分法適用会社の投資利益が増加し、経常利益で増益
- ◇ 法人税等調整額の増加により、当期利益で減益

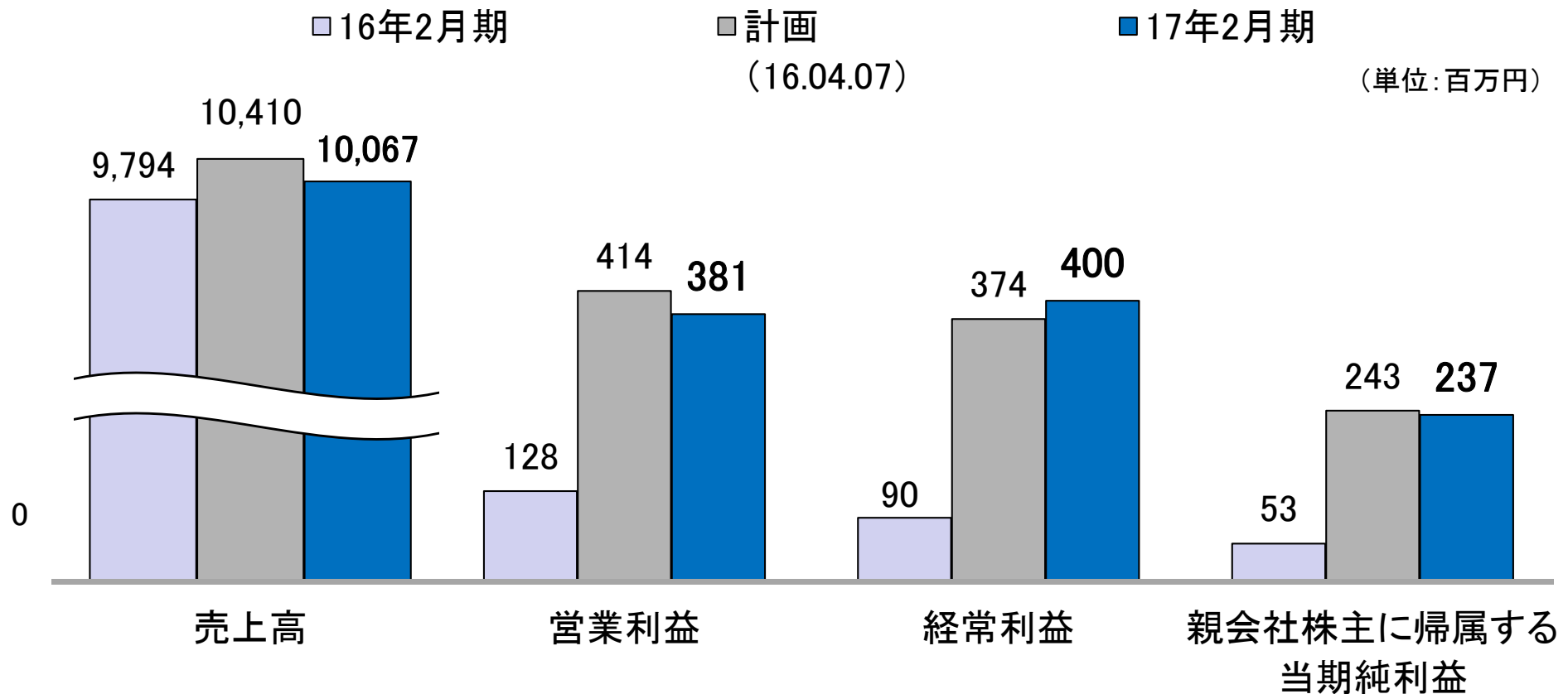
■ 航空機エンジン部品事業

- ◇ 低圧タービンブレードは、2015年8月より生産開始。堅調に推移
- ◇ 新規アイテムである圧縮機・燃焼器部品は順次認証取得中
一部段階的に生産開始。2018年2月期より本格生産開始

■ 成田事業所の爆発火災事故

2017年2月期決算概要

前期比・計画比による決算概要



前年比	272	253	309	184
計画比	▲342	▲33	25	▲5

2017年2月期損益計算書



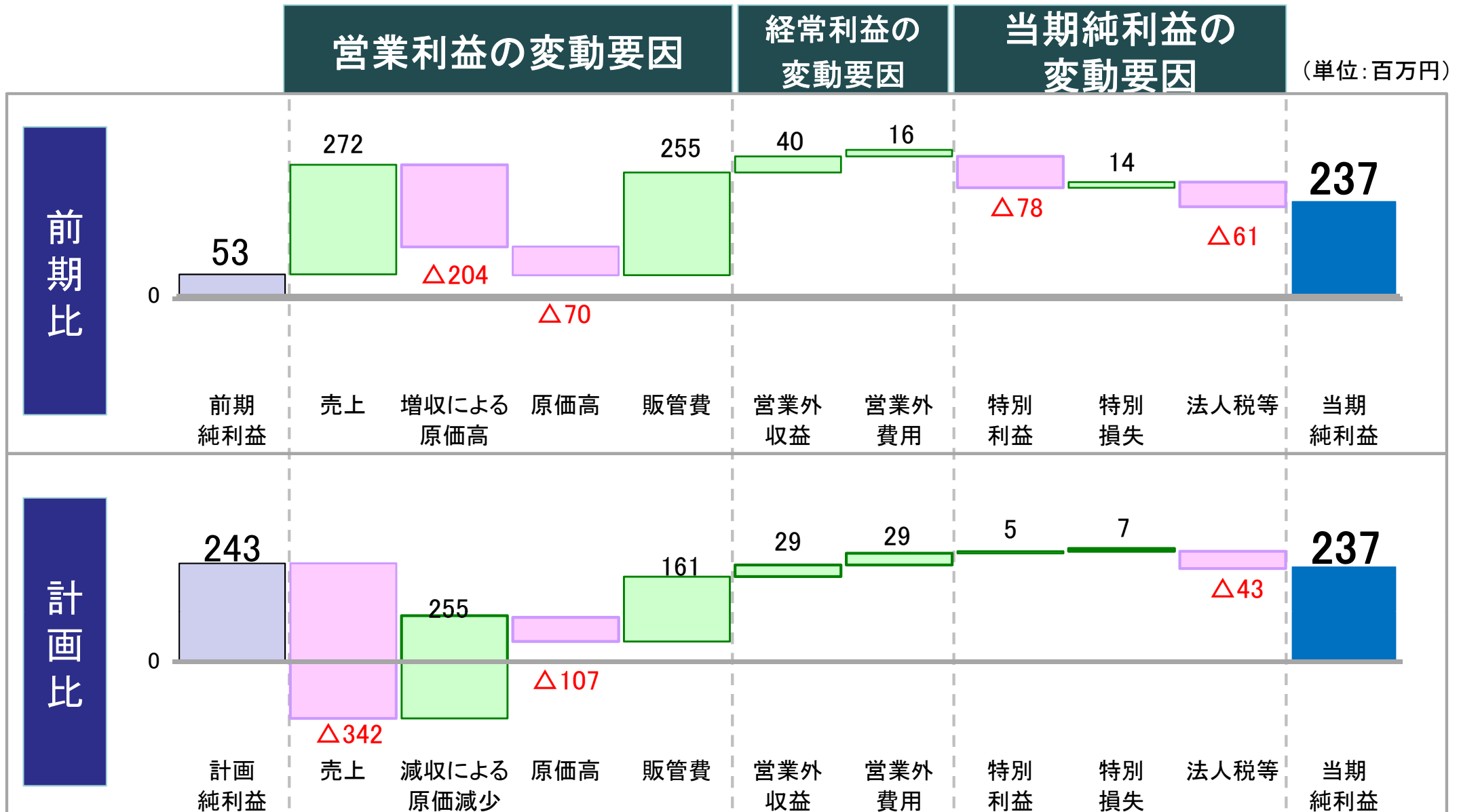
前期比・計画比による損益状況明細

(単位:百万円)

	16年2月期 実績	計画 (16.04.07)	17年2月期 実績	売上高比率		
				前期	計画	当期
売上高	9,794	10,410	10,067	100.0	100.0	100.0
売上原価	7,312	7,736	7,587	74.7	74.3	75.4
売上総利益	2,482	2,673	2,479	25.3	25.7	24.6
販管費	2,353	2,258	2,098	24.0	21.7	20.8
営業利益	128	414	381	1.3	4.0	3.8
営業外収益	28	38	68	0.3	0.4	0.7
営業外費用	65	79	49	0.7	0.8	0.5
経常利益	90	374	400	0.9	3.6	4.0
特別利益	103	20	25	1.1	0.2	0.3
特別損失	29	21	14	0.3	0.2	0.1
税金等調整前純利益	164	373	411	1.7	3.6	4.1
税金費用	111	130	173	1.1	1.3	1.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	53	243	237	0.5	2.3	2.4

2017年2月期利益の変動要因

前期比・計画比による利益の変動要因



2017年2月期セグメント別概要

各セグメントにおける売上高・営業利益

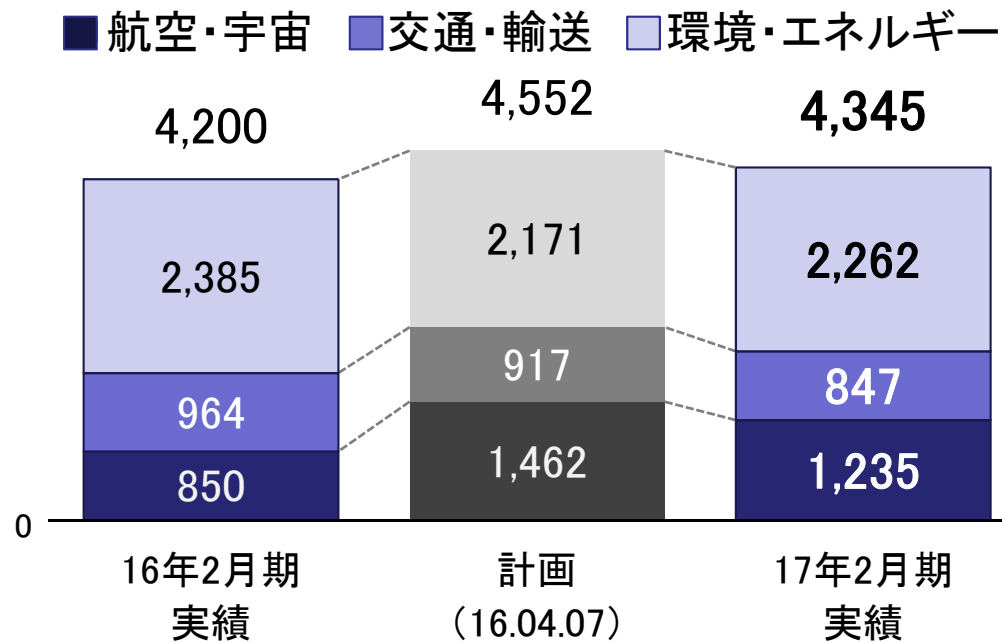
(単位:百万円)

	売上高			営業利益		
	16年2月期 実績	計画 (16.04.07)	17年2月期 実績	16年2月期 実績	計画 (16.04.07)	17年2月期 実績
放電加工 表面処理	4,200	4,552	4,345	△ 16	201	86
金 型	3,268	3,335	3,702	724	894	1,046
機械装置等	2,326	2,522	2,020	467	440	302
全社費用				△ 1,047	△ 1,121	△ 1,053
合 計	9,794	10,410	10,067	128	414	381

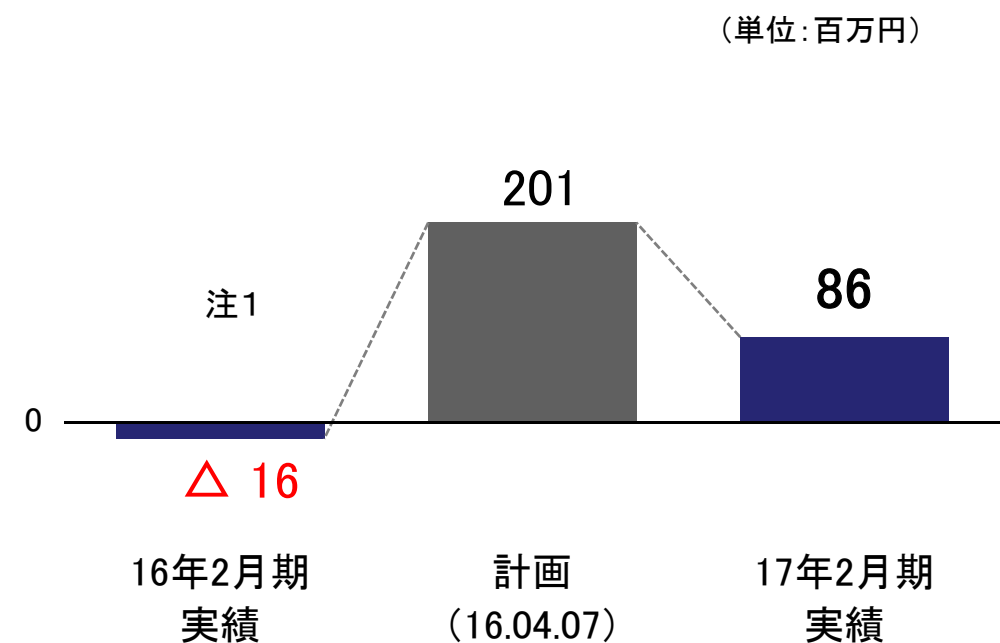
セグメント別詳細：放電加工・表面処理

放電加工・表面処理における概要

売上高



営業利益



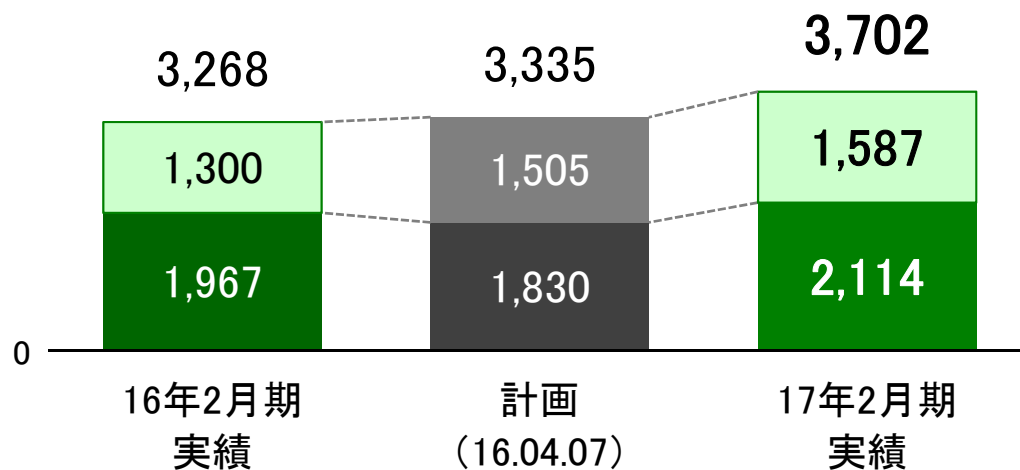
市場動向	航空・宇宙 ： 新型旅客機向けに市場は活発 交通・輸送 ： 自動車関連は国内・海外向けトラックが好調 環境・エネルギー ： プラント関連は引き続き低調
業績要旨	◇セグメント全体では、前期比増収・増益も、計画比では減収・減益。 注1：航空機エンジン部品事業における低圧タービンブレードは、前期8月より生産を開始しております。圧縮機・燃焼器部品は認証の遅れにより減収・減益となっております。

セグメント別詳細：金型

金型における概要

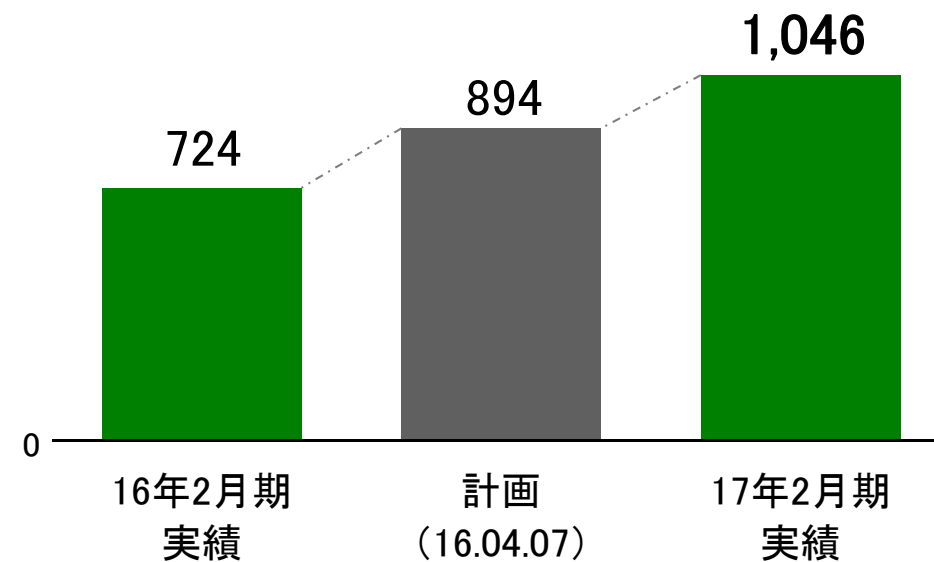
売上高

■住宅 ■交通・輸送



営業利益

(単位：百万円)



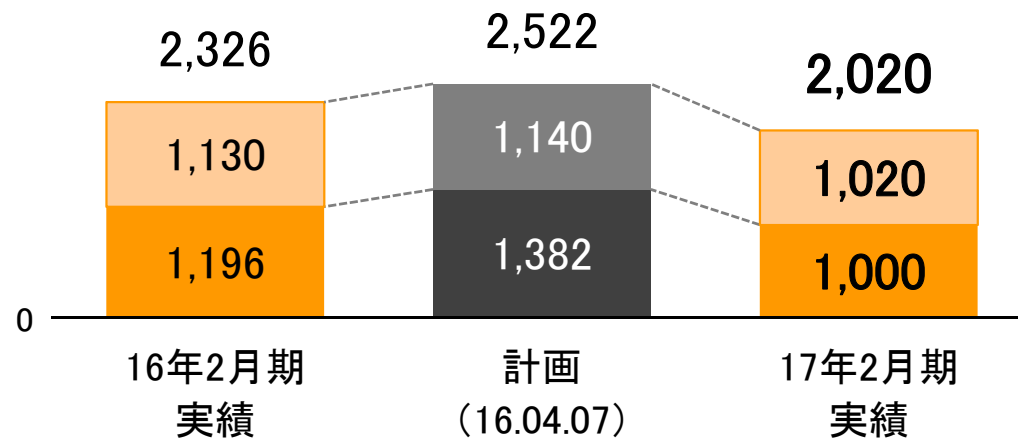
市場動向	<p>住宅：住宅着工件数は横ばい</p> <p>交通・輸送：世界各国での排ガス規制の強化により、排ガス浄化用装置の需要は好調</p>
業績要旨	<p>◇住宅向けアルミ押出用金型は、厳しく見ていたが、前期より増収。</p> <p>◇セラミックスハニカム押出用金型は、増産体制の効果もあり増収。</p> <p>◇増収に伴い、増益</p>

セグメント別詳細：機械装置等

機械装置等における概要

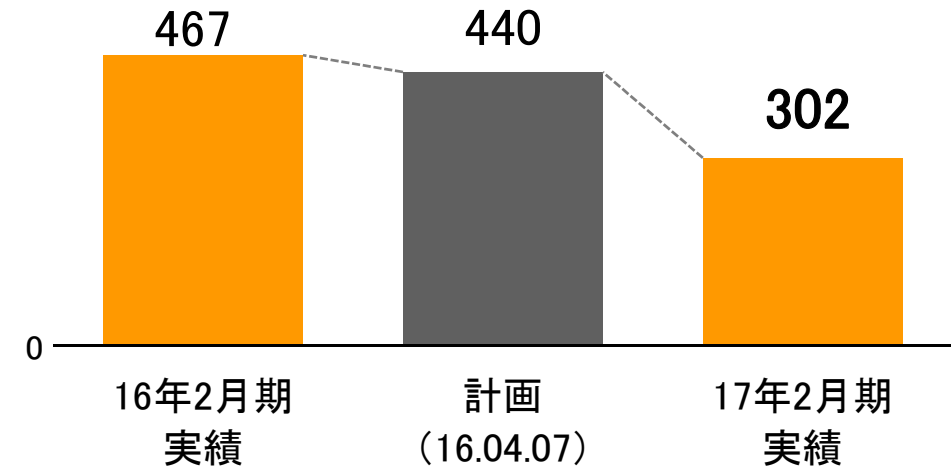
売上高

■ 機械設備 ■ 交通・輸送



営業利益

(単位:百万円)



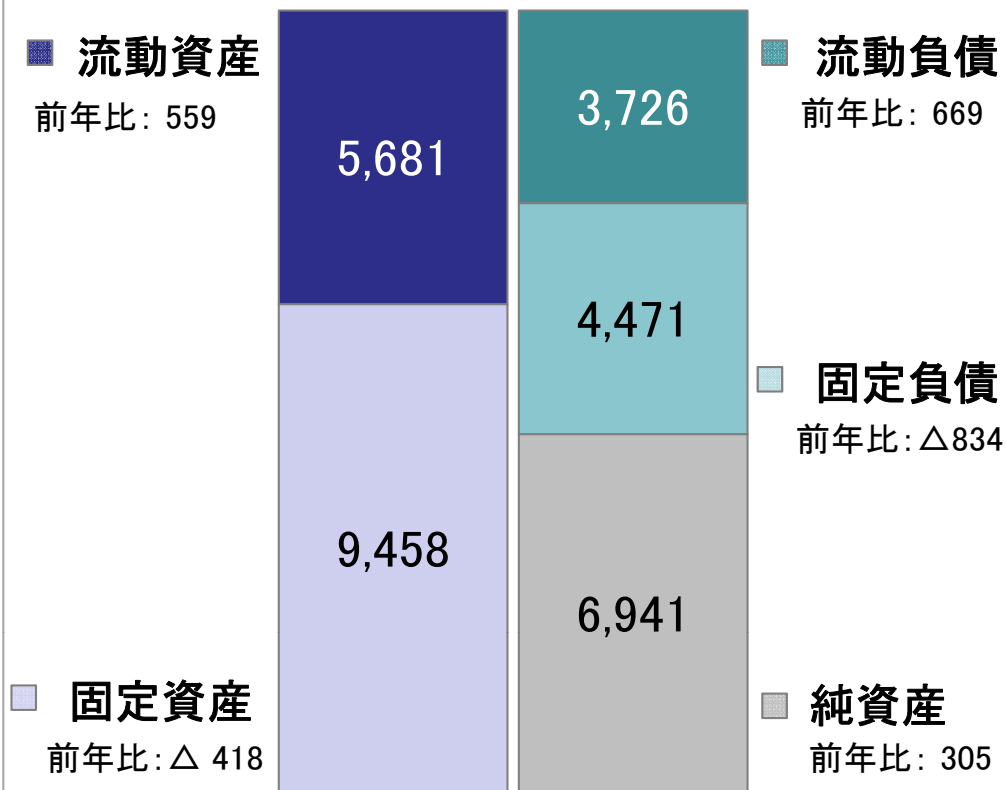
市場動向	<p>交通・輸送：自動車関連は堅調</p> <p>機械設備：設備投資の検討は維持され、若干の改善傾向</p>
業績要旨	<p>◇小型プレス機の販売目標に届かず計画未達</p> <p>◇量産アイテムにおける開発案件の計画未達</p> <p>◇減収による減益</p>

連結貸借対照表とCFの状況

2017年2月期末 連結貸借対照表とキャッシュ・フロー

連結貸借対照表

資産の部 負債の部 (単位:百万円)

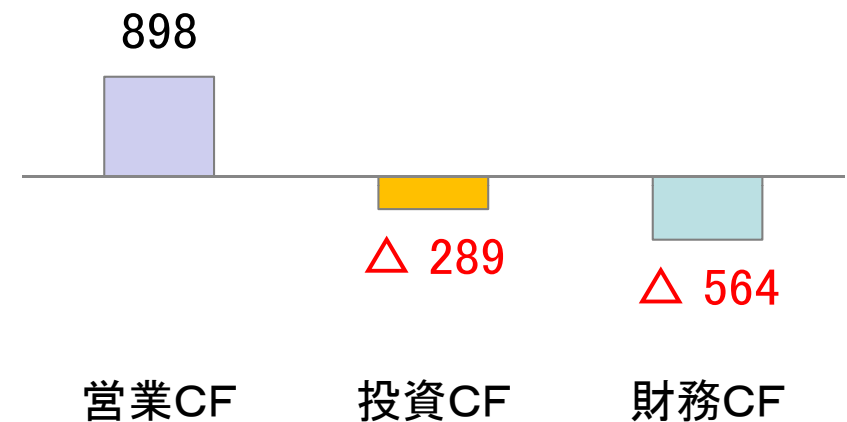


2017年2月期 自己資本比率 : 45.9%
 2016年2月期 自己資本比率 : 44.2%

キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	16年2月期	17年2月期
現金及び現金同等物	510	554



投資は状況を勘案しながら一部延期と取捨選択により見送り

設備投資／減価償却費

(単位:百万円)

	16年2月期 実績	計画 (16.04.07)	17年2月期 実績
設備投資	1,015	1,146	451
減価償却費	946	976	905

17年2月期 投資案件

- ◇セラミックハニカム押出用金型
増産対応の一部
- ◇生産能力の増強

研究開発費

(単位:百万円)

	16年2月期 実績	計画 (16.04.07)	17年2月期 実績
研究開発費	584	372	348

17年2月期 開発案件

- ◇圧縮機・燃焼器部品立上
- ◇完全クロムフリー塗料の機能性向上
- ◇電解加工の生産性向上

成田事業所爆発事故における業績影響

2017年2月期の影響内容と今後の概算

2017年2月期の影響

代替生産による原価アップ

約3,000万円

成田事業所では半自動化生産ラインから手作業による
2拠点での生産方式で対応

特別損失の計上

約1,300万円

棚卸資産・固定資産の除却 等

2018年2月期の影響見込み

代替生産の影響

約1億6,000万円

全社安全対策投資・費用 等

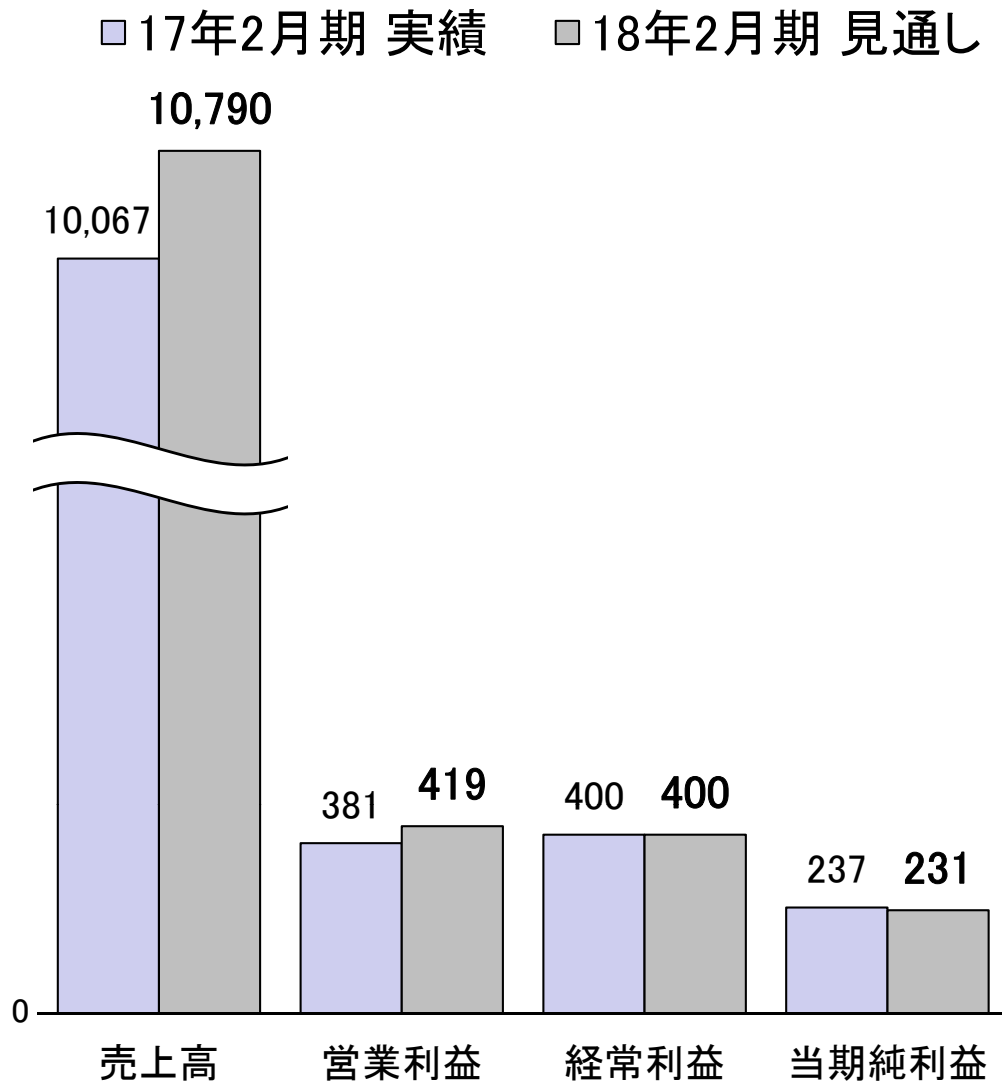
※1 成田事業所は安全対策を施した上で2017年9月 復興予定

※2 供給責任に伴う費用発生は、ありません

2018年2月期 通期見通し

2018年2月期見通し

事故復興と航空機エンジン部品事業の遅れ挽回に注力



売上高	前期比 +723 (107%)
営業利益	前期比 + 38 (110%)
経常利益	前期比 ± 0 (- %)
当期純利益	前期比 ▲ 6 (97.5%)

(単位: 百万円)

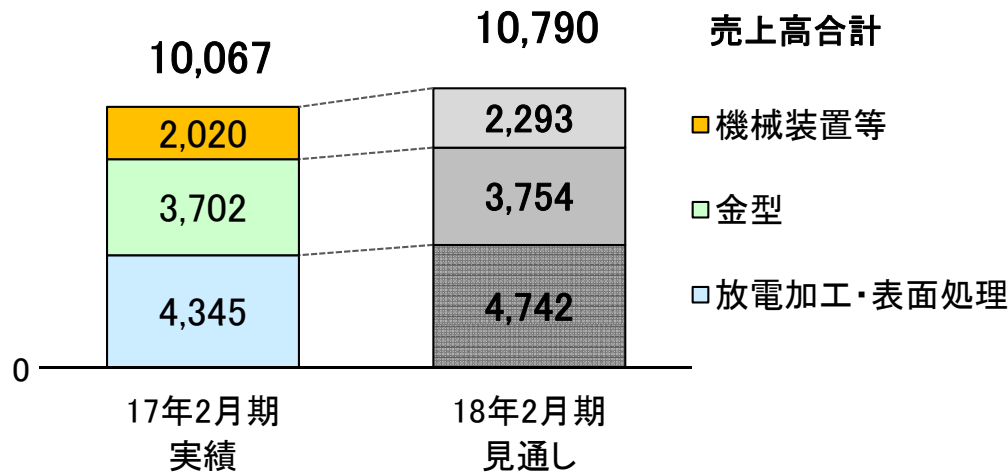
	17年2月期 実績	18年2月期 見通し
売上高	10,067	10,790
営業利益	381	419
経常利益	400	400
当期純利益	237	231

2018年2月期見通し(セグメント)

セグメント別売上高・営業利益見通し

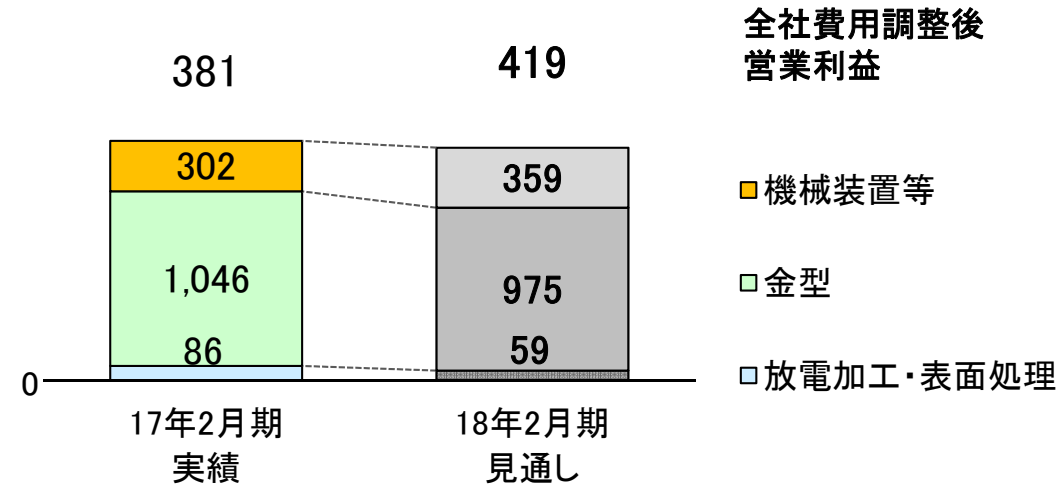
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



	17年2月期実績	18年2月期見通し	前期増減
放電加工・表面処理	4,345	4,742	397
金型	3,702	3,754	52
機械装置等	2,020	2,293	272
売上高	10,067	10,790	722

	17年2月期実績	18年2月期見通し	前期増減
放電加工・表面処理	86	59	▲27
金型	1046	975	▲70
機械装置等	302	359	56
全社費用	▲1,053	▲973	79
営業利益	381	419	38

安全対策と復興投資中心に実施。増産対応も計画

設備投資／減価償却費

	17年2月期 実績	18年2月期 見通し
設備投資	451	1,500
減価償却費	905	1,115

主な投資内容

- ◇成田事業所 復興
- ◇安全対策 環境見直し
- ◇セラミックハニカム押出用金型増産対応
- ◇基幹システム一部改修
- ◇生産能力の増強

研究開発費

	17年2月期 実績	18年2月期 見通し
研究開発費	348	171

主な開発案件

- ◇圧縮機・燃焼器部品 立上げ費用
- ◇放電加工 高速化実験
- ◇電解加工 生産性向上
- ◇樹脂押出金型実験
- ◇プレス機制御・機構開発
- ◇完全クロムフリー塗料の機能性向上

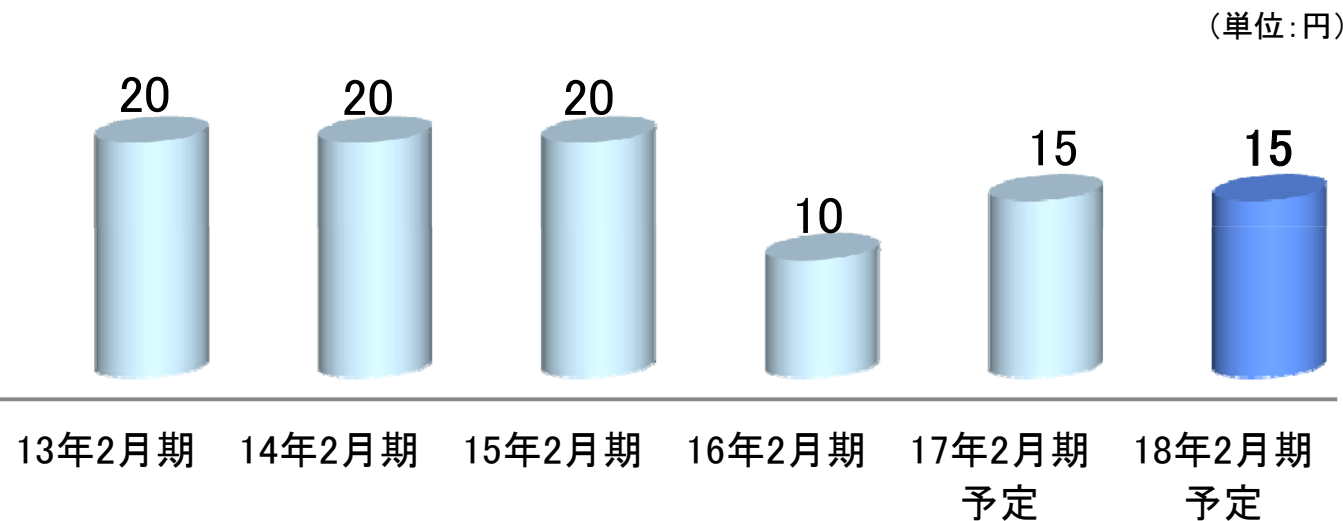
株主還元配当方針

安定かつ継続的な配当が基本方針

基本方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと考えております。現在及び今後の事業収益をベースに将来の事業展開や経営体質の強化のために必要な内部留保資金の確保などを勘案し、配当性向30%を一つの目安として、継続的かつ安定的な利益還元を実施します。

配当金



2018年2月期 予定	15円
2018年2月期 配当性向	47.0%

中期経営計画2017

2017年4月6日発表

プラス要因

金型

交通・輸送

セラミックス押出用金型 好調
2018年2月以降も継続

マイナス要因

放電加工
表面処理

航空・宇宙

航空機エンジン部品事業の遅れ
2018年2月期影響

交通・輸送

成田事業所の事故
2018年2月期影響

機械装置等

交通・輸送

主力アイテム減産
2018年2月期以降に影響

中期経営計画業績目標



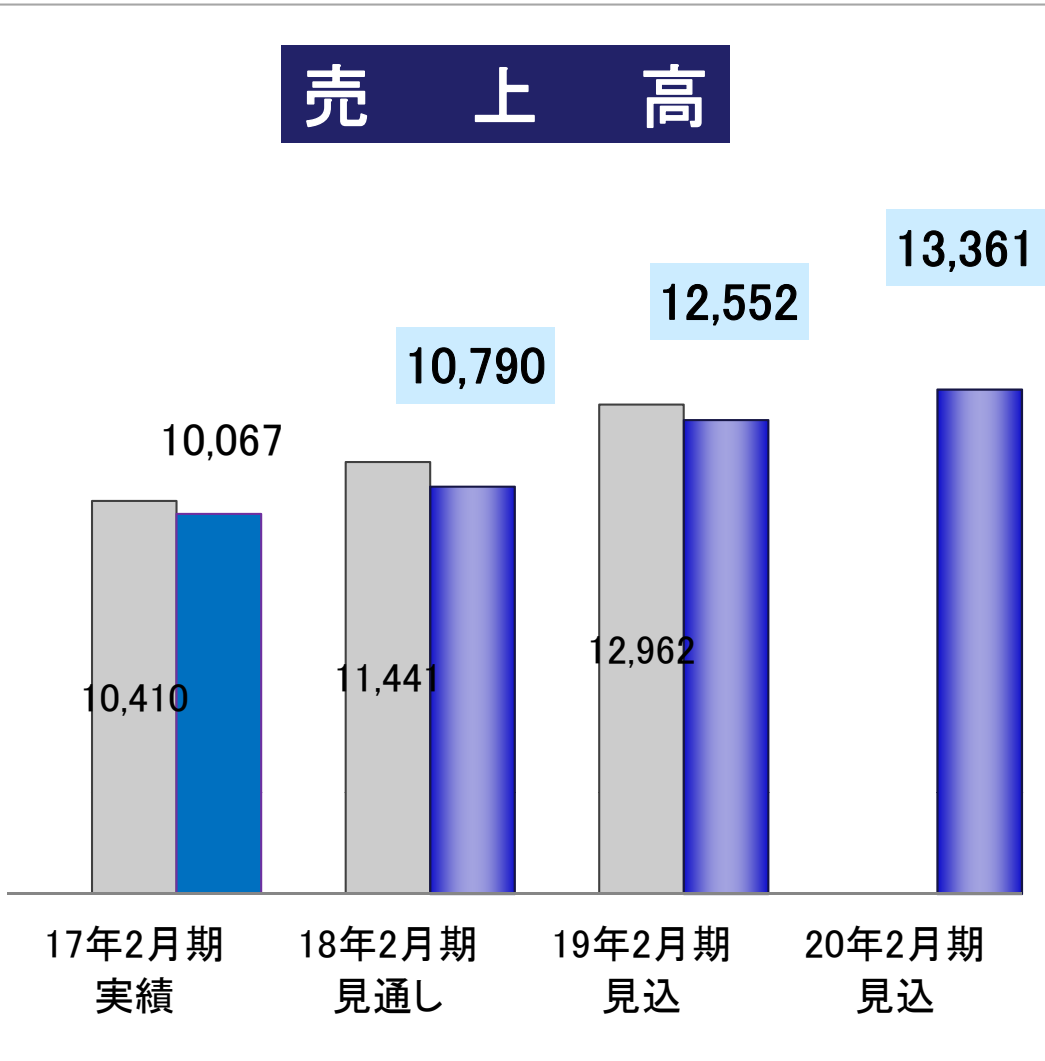
■ 実績

■ 中期経営計画2016

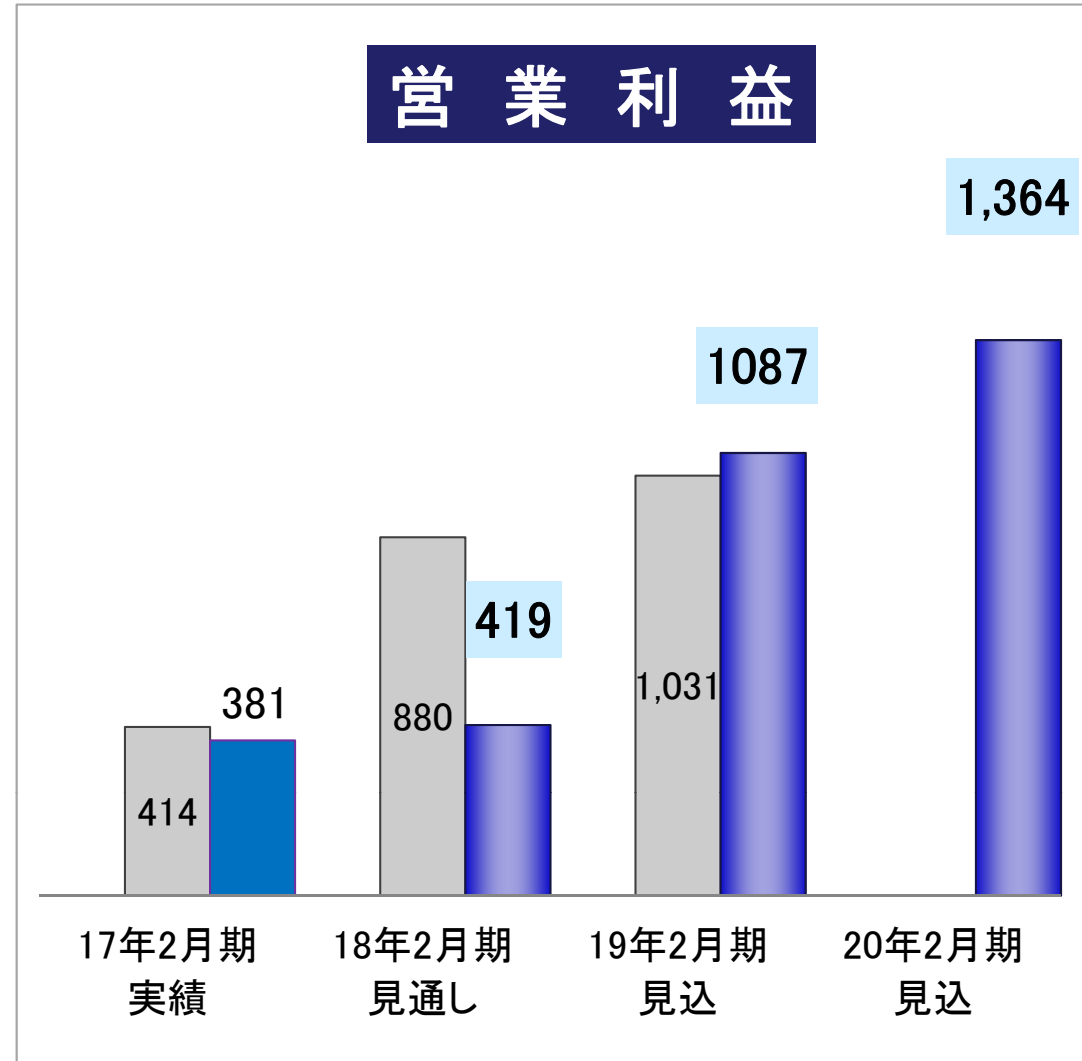
■ 中期経営計画2017

(単位:百万円)

売上高



営業利益



<p>■ 安全第一への意識改革と風土作り</p>	<p>○ 事故原因と教訓の共有</p> <p>○ 「安全第一」活動の啓蒙・浸透活動</p>
<p>■ 既存事業をより強化</p>	<p>○ 売上拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫加工アイテムの拡大 ・新工法開発による顧客開拓 ・他社との協業による用途開発 ・生産性・利益率を考慮した受注 ・既存顧客の深耕 <p>○ 利益率向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益性の低いアイテムの見直し ・外部購入比率の引き下げ ・現場改善による収益力向上
<p>■ 航空機エンジン部品事業の拡大</p>	<p>○ 低圧タービンブレードの本格生産による黒字化</p> <p>○ 圧縮機・燃焼器部品の生産開始による利益貢献</p>
<p>■ 新規事業・新規アイテムの開拓</p>	<p>○ 投資を含めた事業計画の管理徹底</p>
<p>■ 技術・技能伝承と人材定着と育成充実</p>	<p>○ 戦略的な人材配置</p> <p>○ 教育プランに沿った人材共育</p>
<p>■ ガバナンスの強化</p>	<p>○ 法令遵守の徹底</p> <p>○ リスクマネジメントの強化</p> <p>○ CSR意識向上</p>

低圧タービンブレード

- ・通年にわたる本格生産により2018年2月期での黒字化
- ・安定して量産できる体制の維持管理

圧縮機・燃焼器部品

- ・認証遅れの早期解消を目指す
- ・認証資格取得後の安定して量産できる体制の構築
- ・2020年2月期での黒字化

- 航空機エンジン部品事業での黒字化は2019年2月期
- それぞれが長期にわたるアイテムであり、供給責任を果たせるよう厳格な量産体制の安定化が最優先

放電加工・表面処理

環境・エネルギー 原動機関連

- ◆ 顧客海外グループへの直接供給の開始と更なる供給先検討
- ◆ メンテナンスサポート体制の既存顧客を巻き込んだ体制の構築

金型

交通・輸送 セラミックスハニカム押出用金型

- ◆ 設備投資による増産体制の安定供給体制の構築
- ◆ 新工法開発による顧客の開発支援案の展開

機械装置等

機械設備 他社との協業による用途開発

- ◆ 商社・設備メーカー・材料メーカーとアライアンスによる炭素繊維業界への展開
- ◆ 刃物メーカーとの協業によるフィルム業界への展開
- ◆ 精密樹脂成型業界への展開

独創技術でニーズにお応えする

HJK 株式会社 **放電精密** 加工研究所

本資料に記載された目標や予測等、将来に関する記載が記述があります。
資料作成時点での当社の判断に基づき作成したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績や結果とは異なる場合があります。